

まちづくりの答えは

市民の中にある

「まち」を構成しているものはなんだろう？

人がいて建物が集まっていれば人は目視でそれを「まち」だと認めるだろう。

しかし、それだけでは足りない…

そういった目に見える構成要素だけでは「まち」とは言えない。

観光？資源？子育て？防災？

「まち」は様々な視点からのトライ＆エラーを繰り返し、

人の暮らしを前へと進める基盤となっている。

そんな「まち」を今一度見つめ直し、

私たちは、「世代を越えた人のつながりを地域でつくる」という

まちづくりのテーマを打ち立てた。

「まち」の未来に想いを馳せた時、

「交流」がなければ、

「まち」はたちまちその役割りを失っていくことが目に見える。

抽象性と具体性の狭間で揺れながら、

ときには他者理解を経ながら、

テーマの核心に迫っていった、

その記録を記載する。

第4期高島市まちづくり推進会議報告提案書

世代を越えた人のつながりを地域でつくるグループ

I テーマの捉え方は十人十色



まずは「まち」を見渡してみても気になることは何ですか？

防災意識にばらつきがある…

民生委員のなり手不足…
福祉制度を知らない…

子育てについての世代間の
サポートを…
障がいのある方がおられる
家庭のサポートを…



まちづくりの研究者



まちづくり推進委員

II 見えてきたのは他者理解の「場」づくり



皆さんそれぞれの視点での課題提起の中に、他者理解の必要性和難しさが見えてきますね。



ヤングケアラーについての活動をしていて、市内に少しずつ理解が広がってきたように感じています。信頼できる大人と話ができる場所の必要性は感じます。



キャリアデザインのイベントで、地元の一企業として市内の中学生や高校生と高島市で働くことについて意見を交わしたことがあります。意外と子どもと地域の大人が話をする機会はあるのではないかと思います。

★他者理解の場づくりというテーマが見えました！

III ボードゲームカフェで多世代交流に挑戦

多世代が共通の目的で集まっているボードゲームカフェで、
楽しい雰囲気の中、「まち」のことについて話し合ってみました。

ボードゲームカフェとは

一般社団法人あすラボ主催のイベント。

今津ヴォーリス資料館内で、誰でも気楽にボードゲームを楽しめる。

あすラボ ホームページ <https://www.tk-asulabo.com> →



お題カードオープン！
3億円あたったら高島市で何をする？

大きなマンションを建てる!!



ボードゲームカフェで話し合いをしてみて



楽しい雰囲気の中で話ができましたが、
子育て世代や子どもたちの代表的な意見を聞けたわけではないですね…。



改めて、どんな世代が場に参加していると我々が思う「多世代」になるのか、考えていきましょう。

Ⅳ 改めて多世代とは？



世代って子どもからご高齢の方まで幅広いですね。

一度に多世代が集まることは難しそうです。



それぞれの世代が何を課題としているのかもっと知りたいですね。

各世代の課題を共有するには、信頼関係ができていることが基盤だと考えます。



確かに、興味のあることも年齢も違う人同士で、いきなり「まち」の課題を共有するのはハードルが高いですね。

既存のコミュニティで多世代がつながる場はありますか？



新旭のエスパ内で行われている「ふれあい食堂」では、
多様な世代の人々が集まっているのではないのでしょうか？

Ⅴ ふれあい食堂についてヒアリング

ふれあい食堂を開く思いや、コロナ前後の変化、運営課題等について、
代表の森田さんに話をお伺いしました。

森田一男さん：新旭町を拠点に、大師山ボランティアサークル、新旭ふれあい食堂の
運営等、子どもたちの未来も視野に入れた高島市の地域づくりに尽力されています。



森田さん

「地域の多世代交流を目的に、新旭駅前ふれあい食堂を開始しました。カレーを食べながら、
子どもたちの楽器演奏やイベントなどで交流し、賑やかに開催してきました。コロナ禍の現在で
も屋外にイベントテントを立てて食堂を続けています。」

「毎回約 150 食を作っています。子どもたちは、友だちを誘ってきてくれています。」



多世代で集まりコミュニケーションできる場を、どうしたらできるのかを考えています。

森田さん

「交流のために何が上手くいくか分からないので、
食堂も見切り発車で始めました。うまくいかないことがあれば
そのつど、直していけばいいと考えています。」



ふれあい食堂では、どんなコミュニケーションが行われていますか？

森田さん

「開始当初は、子どもたちと高齢の方々が一緒にテーブルで話をしている姿がありました。」
「コロナ禍以降は、カレーを持ち帰りされる方が多いですが、顔見知りに来て声をかけあえる場
所になっていけると良いと考えています。」
「主に高齢の方がボランティアとして運営に携わっています。ボランティアに携わると交流が
生まれますし、みなさんも交流を求められていますね。」





交流について、熱心な人は参加されやすいですが、そうではない人をどう誘っていけば良いでしょうか？

森田さん

「若い時は地域との関わりを求めなかった人も、60代70代になり、子どもは市外へ出て帰ってこない中で、地域とのつながりを重視されるようになります。原点は、少しずつ、1人ずつ、人を集めて、つながることを考えることがヒントになるかもしれません。」

VI 「顔見知り」で終わらないための突破口とは



ふれあい食堂では、特にコロナ禍の現在においては、ボランティアさん同士や子どもたち同士の同世代でのコミュニケーションが行われていますね。ボランティアさんと、参加されている子どもたちやご家族との、信頼関係に基づいたコミュニケーションも盛んだと感じました。バラバラに集まった人が、異なる世代で交流する場ってなかなかないのかもしれないですね。



「多世代が交流できている場を探す」以外の新しい視点で考えてみましょう。新しい視点として、このグループでは多世代が集まり交流することで、どんな関係が生まれることを目指しますか？



まずは、顔見知りの関係をつくることが第一段階だと思います。挨拶や世間話ができるような…



でも、顔見知りから相互理解のコミュニケーションへつながるとは限らないですね…。当初掲げていた「他者理解の場」は見えてくるのでしょうか。



団体のリーダーなど、まちへの思いを持たれている、このまちのキーマンのような方同士のつながりも大切だと思います。



ターゲットをキーマンか一般市民かでしばって考えてみましょう。

VII 交流の鍵はキーマンにあり!そしてテーマの更新へ!



キーマンは、団体同士でつながることへの興味が強いのではないのでしょうか。団体の発展につながる新しい事業やアイデアも生まれるかもしれません。



どうしたらキーマン同士をつなげられるでしょうか。例えば4年に1度のベストオブキーマンを決めるとか…



そもそも団体の間にも世代の違いがあって、団体のキーマンが別の世代のキーマンを知らないかもしれないですね。



現時点でみなさんが話し合われている内容は、市民協働交流センターの業務内容に接近していますね。



いろいろな世代をつなぐための市民協働交流センターの機能を考えていきましょう!



更新されたテーマは



「いろいろな世代をつなぐための市民協働交流センターの機能を考える」



たかしま市民協働交流センター 現在の機能

いろいろな世代をつなぐための新たな機能を考えるために、現在の市民協働交流センターの機能と事業について整理しました。

市民協働交流センターは、市民の自発的・自主的な活動を支援し、民間組織と行政、市民による非営利の活動と営利目的の企業など、多様な組織をコーディネートする「中間支援組織」として、2009年に高島市が開設し、市民団体によって運営され14年が経ちます。

<機能>

情報提供・相談機能

コーディネート機能

ネットワーク機能

資源の仲介
(人、モノ、カネ、情報)

価値創出機能
(政策提言、調査研究)

<事業>

- ・団体やグループの設立や運営の相談
- ・助成金や会費など資金の相談
- ・団体や人の紹介
- ・市民団体の情報収集と発信

- ・団体やグループ、大学、自治協議会、企業、行政などとのコーディネート
- ・協働提案事業の支援

- ・団体やグループ同士のつながりづくり
市民と団体の出会いと参加のきっかけづくり【市民活動フェスタ】

- ・プロジェクター・印刷・PC 利用サービス
- ・市外からの人をつなぐ
- ・助成金など情報提供

- ・地域の課題や魅力をテーマに、多様な組織や市民が学び、話す機会づくり
- ・行政や社会福祉協議会の会議に参加

現在の機能を整理すると、「市民活動フェスタ」以外に団体のキーマンや市民が出会い、話す機会が少ないことが分かりました。

そこで

**市民協働交流センターの事業サポーター
を募集し、市民と一緒に進めてほしい**

市民団体のネットワークづくりや市民との出会いを目的に開催される「市民活動フェスタ」は市民協働交流センターが実行委員を募集し、市民のアイデアと実行力で開催されてきました。

後のページで提案する、世代をつなぐための新しい機能を実現していく上でも、多様な世代やさまざまな関心を持つ市民と一緒に、企画・運営していくことで、より充実した事業にしていきたいと考えました。



コミュニケーションの場づくり ～人財の発掘～

さまざまな世代、いろいろな関心を持っている人、まちの中やご近所で気になることがある人、まちでやってみたいことがある人、仲間を探している人…誰でも、気軽に、まちのことをなんでも話せる場所があれば、話すことをきっかけに、新たなまちづくりの「種」が動き出す。話すことをきっかけに、世代を越えて人がつながるきっかけになる。そんな場を市民協働交流センターの新しい機能として提案します。

まちのことを誰かと話したい…

- まちのことで気になることがある…
- まちでこんなことやりたいな…
- 普段はまちのこと話してないけど…
- 誰かに聞いてほしいことがある…
- まちのこと知りたいな…



興味やきっかけがあれば話ができる

- おいしいコーヒー ・ ゴミ拾い
- ウクレレを楽しむ ・ 空き家の話
- 絵本やマンガの話 ・ うちの猫の話
- 昔の話（昔の暮らし）・ アニメの話
- 学童保育や市民団体の話
- 移住して来た人と話せる
- 行政がめざすまち、総合計画の話



コミュニケーションの場

- 共感の場・寛容な場（ありのままを受け入れる）
- 安心の場（時間や空間にゆとりを持たせる）
- 話せるし、聞いてもらえる場
- 話すことが苦手でも聞きに来るだけでもいい
- 合意は必要ない ・ リラックスして話せる
- フラッと気軽に来ていい
- 定期的に関われる



参考:

みんなの尼崎大学 相談室

尼崎市には市民が誰でも、何でも話しができるコミュニケーションの場を、定期的に関催されています。



コミュニケーションの場の名称案：まちトーク(まちのことを話す場)、ハイランド五万弱(高島の人口五万人弱で話す場)

まちづくりの「種」を持つ人のエネルギーが高まり、動き出す

- 🌱 人と情報がつながり動き出すきっかけになる
- 🌱 市民活動への参加やグループを作る

市役所の職員も来てほしい

- 🌱 市役所の職員もまちづくりの「種」を見つけに来てほしい
- 🌱 行政の取り組みや計画についての話の時は、説明に来てほしい

市民協働交流センターのネットワークでサポート

- 🌱 まちづくりの「種」の実現の可能性を探る
- 🌱 活動団体につなぐ、活動する人につなぐ

将来 コミュニケーションの場の効果が説明できるようになれば…

市民活動団体やボランティアグループなどにコミュニケーションの場を広げていくことができれば、市内のあちこちで、いろいろな話しができるようになり、人が出会い、情報がつながり、何かが動き出すきっかけになり、地域の課題解決になっていくと考えます。

世代をつなぐための市民協働交流センターの新しい機能 その2

人とモノの紹介 ～人財・機財バンク～

※「材」を財宝の「財」にしています。

市民協働交流センターの新機能として、「人とモノの紹介 ～人財・機財バンク～」を提案します。伝えたい技術・知識・経験のある人や貸し出せる機材のある個人・企業・団体を紹介します。それらの情報は、ウェブサイトなどに集約、公開し、いつでも気軽に閲覧できるようにします。「力を貸したい人」と「力を借りたい人」をつなげる仕組みです。

参考：

草津市コミュニティ事業団
レンタルねっと☆くさつ

草津市ゆうゆうびとバンク



- ・会社にある機材を使ってほしい！
- ・今までやってきた子ども食堂のノウハウを伝えたい！
- ・ボードゲームをいろんな人に知ってほしい！
- ・いろんな人と交流するツールを伝えたい！
- ・面白い遊びを広めたい！

力を貸したい人



- ・夏祭りをしたいけど、焼きそば屋台セットを借りられるところはないかな…
- ・草刈りボランティアをしたいけど、草刈り機を借りることはできないかな…
- ・地域の人が集まれるように場所を開放したいけど、どうしたらいいのかな…
- ・スポーツレクがマンネリ化してるな…

力を借りたい人

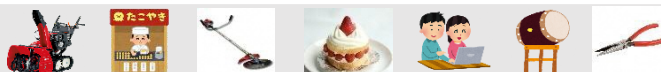


登録

市民協働交流センターは、「力を貸したい人」と「力を借りたい人」をつなげる役割を担う。

閲覧

たかしまのひととモノの紹介サイト



人財バンク

伝えたい技術・知識・経験のある人を紹介。
いろんな人の発掘、つながりを広げる。

- ◇屋外イベントの電気配線について相談できる
- ◇イベントの経験や知恵を持つ人に相談できる
(例：市民まつりなど歴代実行委員長)
- ◇何かを教えられる人
(例：団体の代表、元教師、整理整頓やお菓子づくりの好きな人。アマチュアもプロも登録可能)
- ◇子ども向けスポーツ教室できる人
(例：就学前や低学年の子ども野球体験の指導者)

機財バンク

貸し出せる機材を持つ、
個人・企業・団体を紹介。

- ◇焼きそば・たこ焼き屋台セット…
→商工会、社会福祉協議会など
- ◇除雪機・ショベルカー・草刈り機…
→機材貸出し可能な企業
- ◇借りるのは区・自治会、市民団体、地域の協議会など
- ◇企業間で情報の共有もできるとよい

この機能があれば起こる良いこと

- ・地域の人が出会う機会づくりに貢献できる。
 - ・誰もが自分の得意なことをまちづくりに活かせる。
 - ・活動の場、活動の輪を広げることができる。
 - ・新たな出会いにつながる
 - ・顔見知りが増える。
- …まちで会った時に声をかけあえる関係になれる。

〇〇さん、
こんにちは！



この機能の留意点

- ・力を貸す人は、力を借りたい人や団体をサポートする役割を担う。
→ただし、サポートする人は活動や運営の補助に徹することが大事。
- ・「教える」「学ぶ」というより、「お互い楽しむ」ことを意識する。→対等な関係性をつくる。

グラウンド プラス
Ground Plus (仮) ～まちづくり応援基金～

Ground Plus (G+ 通称ジータス) とは、「たかしま」をグラウンドに活躍する様々な団体や人々のまちづくり活動を支援する基金。基金はこのまちの企業や市民からの寄付で成り立ち、まちの人が自分たちのまちづくり活動に想いを寄せ、協力し、応援するカタチで、「たかしま」の未来をより豊かにする仕組みです。

企業協賛型 G+ (G com)

まちづくり企業サポーターとしての寄付

- ・企業分野に合った活動の応援
- ・寄付によるまちの発展
- ・企業イメージのアップ
- ・社員も会社の魅力や誇りを感じる
- ・新規雇用の創出

(G com の com は company : 会社です)

市民協賛型 G+ (G peo)

まちづくり市民サポーターとしての寄付

- ・生活スタイルに合った活動の応援
- ・知り合いの活動を応援したい
- ・新たな活動に繋げてほしい
- ・市民もまちの魅力アップに貢献できる

(G peo の peo は people : 人々です)

市民協働交流センター及び団体の代表者、市民などで使い道を考える
(まちづくりサポーターによる審査)

- ・寄付支援によりさまざまな活動団体に足を運ぶ機会が生まれる
- ・小額からの寄付でも、まちづくりを応援できる
- ・寄付者と助成を受ける団体との関係が深まる
- ・企業+団体+市民等による協働・協創事業への発展
- ・まちへの関心が高まり、市民意識レベルの向上に繋がる

人任せにしない。自分たちにもできることがある。

小さな一歩が未来を紡いでいく

世代を越えた人のつながりを地域でつくるグループ

おおたに けん と
大谷 健仁 20代

青年団で活動している際にお声かけしていただいたことがきっかけ。市内の多世代の方とまちのことを話すと聞いて面白そうだと感じ参加した。

ふくだ ふみや
福田 史也 20代

知人の紹介でまちづくり推進会議に参加。個人的にもまちづくりについては興味があり、青年団活動にもこの経験を活かしたいと思い参加した。

よしみ だい
吉見 大 40代

このまちに暮らし、それなりに大人になってきたら、仕事や家族のこともそれなりに落ち着いて、自分の置かれた環境以外の景色を見られるようになった。誰かが守ってきたこのまちを繋いでいかなければならないような気がして今に至る。住まうものとしての責任感だと思う。

つかもと ちひろ
塚本 千尋 30代

職場で勧められたことがきっかけ。地域のことを知り、取り組みを考える過程が仕事に活かそうだと思い参加した。

くわはら つかさ
栗原 司 20代

アルバイト先の代表の方に勧めていただいたことがきっかけ。今後も生まれ育った高島市に住み続けるものとして、少しでも住みやすいまちにしていきたいと思い参加した。

きだ ひろし 70代

高島に暮らして10余年。川のそばに住んでいる。命の危険を常にかんじている。災害が起こる前に・・・自分の命、守ること大切。そして大勢の市民の命も生活も大切。黙らないで動くこと。それは「まちづくり」ではという思いで参加した。一歩から。